

地域の「支え合い活動」を推進しています

普及啓発活動の実施

町内会やサークルなどに出向いて、支え合いについて説明や話し合いを行っています。要望があれば、生活支援コーディネーターなどがお話ししに伺います。

長寿社会課までお問い合わせください。



「地域支え合い推進協議体」の開催

協議体とは、地域住民や活動団体、生活支援コーディネーターなどのメンバーが、地域の支え合いについて、アイデアを出し合い、支え合いの仕組みについて検討する場です。

市全体では年2回、市内の地域包括支援センターのエリアごとでは2~3カ月に1回開催しています。

生活支援コーディネーターってどんな人？

現在、本市の生活支援コーディネーターは、市内全体の担当者が1人、市内各エリア担当者が4人の計5人います。地域に出向いて活動の様子を見せていただいたり、協議体の開催をとおして地域の情報共有や地域の良いところ、困りごとについて話し合いを重ねたりして、支え合いの地域づくりを推進しています。

地域の情報を集めて、人と人、人と関係機関などをつなげ、暮らしやすい地域づくりを目指して活動しています。



▲生活支援コーディネーターの皆さん

地域に出向いたときに、皆さんの活動を教えてください。

次回から、生活支援コーディネーターが、各地域の支え合い活動を紹介します。

☎長寿社会課地域支援係 ☎364-1204

シリーズ 地域支え合い

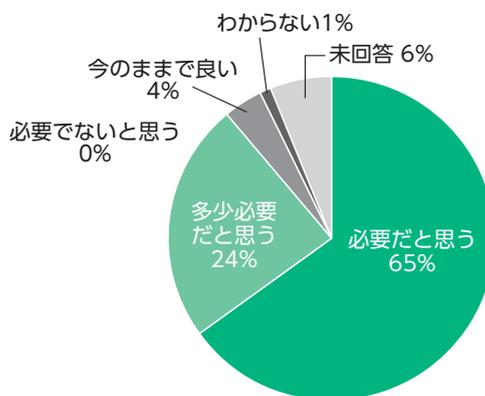
「支え合い活動」が注目されています

全国的に人口減少と高齢化が進んでいます。誰もが自分らしく、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、地域の「支え合い活動」に参加してみませんか。

「支え合い活動」ってなに？

あいさつや声掛けによる見守り活動、健康教室やサロン、ゴミ出しなど、当たり前日々の暮らしの中で行われている活動や、地域住民が互いに行う日常生活のお手伝いのことをいいます。

「支え合い活動」はなぜ必要なの？



(平成28年度地域づくり講演会アンケート結果)

本市は高齢化が進み、65歳以上の高齢者が占める割合は32.3%で、約3人に1人が高齢者(平成30年1月31日現在)です。地域で孤立したり、日常生活の困りごとを抱えたりする高齢者が増えています。アンケート調査によると、地域住民の約9割の人が「必要だと思う」「多少必要だと思う」と回答しており、「支え合いが必要」と感じています。

「困りごと」の中には、「ケガが治るまでゴミ出しをしてほしい」、「話し相手がほしい」など行政や介護サービスでは対応が難しいものがあります。

困ったときはお互いさまの関係づくりが求められています。